

た志大だ私いてが思わかあ絵けうきあ先 し秘にと
、美垣けのがま行、わざつまをでなまる生去た。展「二一
尾術出では絵って今な観たり描しんしそか年。展「カ愛二八日、
西市館身す、画た。て回はかに行で味の。と。でピ暮を、観、県美、息
の社守一ま見よ息子たのう。わ苦まっ初よソに、て天、才、術、息
岸長と屋度でにうをのう。わか手でたはと展、き、才、術、息
三行多は2行と誘でとわか手でたはと展、き、才、術、息
美つ々、回っ思っすはざなではだそ聞が原

初めてのピカソ展
鎌澤 宣子

風地蔵新聞

第149号

発行 編集
風地蔵
白石 美帆
〒503-0922
岐阜県大垣市
馬場町85
ご感想・エッセイ・俳句・お持ちま
短歌などお便り
して下さい

「とクれサあ代メイ皆ピき感描くくちすしキかはこら舗たフ大術
すをま、たンつの一のりい細かも年いれ解いじ「た前う教、父わ
ご知であ炭の、でからす抽一イ。がたもっ。会。場。ら。出。か。ウ。で。美
い、ら。な。り。を。か。鉛。筆。が。示。少。画。だ。の。観。だ。物。心。へ。い。て。ま。ウ。朝。館
う。ま。い。私。で。も。こ。も。ン。か。ッ。て。時。イ。思。は。の。い。と。を。つ。え。立。ま。う。朝。館

頃代思がこるしはば青青く描な描て少言りたてともいすそ才でおと
のにつの作て、か一のりい細かも年いれ解いじ「た前う教、父わ
女入た番青品嘆親り色時してかれ忠時なば説まし「くごうらすをさんが
性っ絵すのばき友でで代しまるあるといにのら。か。イ。つ。つ。ヤ。観。つ。す。を。言。け。頃。美
像たはて時か悲のす描にた。か。入。た。こ。て。写。絵。つ。つ。ヤ。観。つ。す。を。言。け。頃。美
でば、き代りし死。か。入。た。こ。て。写。絵。つ。つ。ヤ。観。つ。す。を。言。け。頃。美
すか青だででんこれる。だ。と。び。ま。こ。的。と。借。つ。つ。子。て。話。た。英。師
りのな、すで直のたと、びまこの、と、借。つ。つ。子。て。話。た。英。師
背の時と私。い面頃絵、つでんと

いしとまイ抽のしてギの売でくりな彫バじかうい家すパテ頃バそ青他もすだ青景
つてらすメ象後ていや頃れす描、ど刻ラがい表と族がン「とブ、色描作がとがの着
た組え。一画になユそのゴそ花れた描、の、むで、描水ル「貧しき代時、おしかい、も
イみて人ジの前つてびう影ッうのて花かパ時、は疲決かこのの、おしかい、も
メ、立、やに身とくると。受ゴ。よそがイルは、す。感暖いらるで、
ジで直度をつとと。受ゴ。よそがイルは、す。感暖いらるで、
しと解できう、そそけしこくう多た画、感暖いらるで、

まに吸るてスまたたにまをでなてがとま息ん奇す
すつ収目いがた。一対し過き一、思り子だ心と。作の描ろ若なるか
。けで養てれう。日する。す。す。そ。も。見。息。り。い。が。と。一。方。細。だ。で、
おたいな、本、物、出、チ、ヤ、ン
わりな、物、出、チ、ヤ、ン
と、思、い、身、

あまでうす

突然の飛行機事故で世を去った音響技術者が、遺品として残したフォルダーに、謎めいた音のメッセージが込められている。事に気付いた彼女は、それを解明する為に彼の残した音源を求めて音の旅に出る。こんなストーリーの小説を読む中、環境音が定めた『残した日本の音風景百選』と云うものがある事を初めて知った。日本各地を訪ねて音を収集して、それが何処で録られた音なのかをデータ化する。その音を録る人を音響技術者と云う。自分も若い頃、一時期集音マイクとテープレコーダーを持って

山などに向き、野鳥の鳴き声やせせらぎの音を録ったり、ステレオコンデンサーマイクを持って踏切に立ち、電車やその通過する音を録ったりもしていた。また講演会、寄席、演奏会などを当時はカセット・テープに録音していた頃を想い出す。今でもその頃録ったテープが一部残っている。コラジオから海外の音楽のライブなどを録ったカセット・テープは二百本ほどあり、今もカセットデッキでよく聴く。一九六〇年から七〇年代のステレオの主流は、豪華家具の様なセパレート型と呼ばれるステレオだった。が、その後レコーダー、プレーヤー、チューナー、アンプ、スピーカーと単体で揃える

コンポーターネストステレオに変わった。家で求めたコンポーターネントで、レコードを聴いている。話を戻すが、パソコンで『音風景百選』を調べてみると、我が国には三ヶ所選ばれている事が判った。一カ所目は、もう七、八回は訪ねている場所、美濃うだつの上がる町にある江戸時代中期に建てられた庄家(以前『あやかし』小説の舞台にした)「旧今井家住宅の水琴窟」。小じんまりとした美しい庭に水琴窟があり、二度ほど清んだ音を聴いた事がある。美濃に行くと、美濃文化遺産に登録が無形文化遺産に濃和紙を買った。美濃文化遺産

り、また新しく車を買い替える。この「旧今井家住宅」をバックに自分の車を撮る。毎年徹夜踊りも含めて踊りに行っていた「郡上八幡を流れる吉田川の川遊び」。橋の上から飛び降りる水音や川遊びの時の歓声は夏の風物詩となっている。友達数人と盆踊りの時期に泊るのはいつもお寺だった。今でも名前を覚えてる。郡上八幡城に行く登り口にある「安養寺」と「善光寺」で夏の間は民宿になり、事前に予約をして泊っていた。浴衣に下駄を鳴らし、時には雨の降る中、踊った事も。三カ所目は、鶴匠がホウホウと掛ける声や船端を叩く音、水面を走る船音

が一体となった「良川の鶉飼」が選ばれている。過日「中行道鶉沼宿祭」で、木曾川うかいの女性鶉匠が鶉を操る実演を初めて見た。ちなみに愛知県には二カ所「伊良湖岬の潮騒」と「東山植物園の野鳥」が選ばれている。「伊良湖岬」には六、七回訪ね、東屋に座り恋路ヶ浜に打ち寄せ、潮騒の音を聴いた時。松尾芭蕉の「鷹ひとつ見つけようれし 伊良湖岬」の句碑や「日出の石門」、島崎藤村の詩「椰子の実」記念碑なども見て周ったりした。「東山植物園」は一度しか行かなかった。それも遠い日の思い出である。

ちよつと立ち話

（エステのMさん）

てま関ん労変いたおん頂巻た原手散しきんすお知養

うな若方必要になら

あ介と世て奥いにあし8いのつたな住初りつて達にチな学は時私

（原）

結いのんそすなその奥台ちんいりす練なかきたんこ飾出ンたの私

（鎌澤）

やことあ原納のがりきの所用た裁い0理弁家でたのりし喜の分大

とのこと

感合また展カ愛イ長と福ちでき打作い早てすおろもはち9まるの有くとのこと

セカンドオピニオンの大切さ

大橋 美紀

ある日、私の実家の弟より、1本の電話が入りました。

夫だから」と、本当に身内のことのように行

た。実は三日前にデイスービスとつながっているところ

ありました。まず肺に水がたまっていること

曜日、私が休みの日にいろいろ施設が整った病院へ祖母を連れて

川風

しらいしみほ

九州旅行プランを立てています。

風地蔵の慰安旅行！会社持ち！といたいですが、売上げを伸ばして来年の夢という事で旅行積み立てを毎月している店長だけがそろそろ九州入りと考えていました。スタッフは二つ返事で心地よく送り出してくれます。なかなかできることではありません。ありがたいことです。夏に風地蔵に帰ったとき、以前勤めてくださったいた方のお宅にご挨拶にいきました。私のお母さんぐらの年の方です。娘さんと名前も一緒で、それはよくしてくれました。苦労知らずの私は、生意気で自分が正しいと思えば口に出し、考えを押しつけていました。今でもまだまだですが、娘に苦労しだしたので、ようやく何でもかんでも言えбайいって思いうようになつてきました。

体当たりで思いをぶつけるだけの私に言葉を尽くしてください。少したったこと、離れてみて少しわかつてきました。また昔のように黒川温泉行ったり、熊本長崎大分と、駆け回って旅をして飛行場では時間がなくなり走らせてしまった旅がしたいなく。そう思っていました。

「少し落ち着いたから、これからは自分のために生きてくださいね！うちにも泊まりに来てください！」前に、プランから外れた青洞門とか、まだまだ連れて行きたいところが山ほどあります。もちろん、今までのように、1日でも3県またぐとかの強行プランはしませんよ。ゆっくり回れるルートを考えます。しかしお金もかかることなので、店長に聞いてきてと頼みました。「社長は九州に行きたいって、社交辞令かなって気にしてましたよ。」と言ったそうです。すると、私が来てねって言ったことこそ、社交辞令かと思ってたわと同じこと考えていたのです。「3泊4日でもい

いんですって！」門司港レトロ、伊藤伝右衛門邸、温泉でゆっくりしたいとのこと。うちの旦那は「店長はおまえと一緒にだつたら慰安にはならんやろもん。俺なら絶対いや！あ、今回は一人じゃないけんよかね。」と憎まれ口を言います。

そうです。今回は、仕事の話抜きのかまし娘の旅にしましようにか。さあどこに行きましよう。テーマを世界慰安にして、三角西港、万田抗、軍艦島上陸を入れながら、行きたい場所の近くで楽しめるものを探す。車ばかりの移動の中にフェリーを入れる。イルカウォッチングとか、地元ならでわのおいしいランチ。源泉掛け流しにこだわった効能の高い質のいい温泉。店長は歴史好きだし、その方は歌人で文化人。わんさかとわき起こる衝動に突き動かせるような風景！もうすでに半分以上仕上がっているのだけど、ここからが大変だ。

欲が出る！あーここにもつれていきたい！こつちにも行かなくちゃ！といつも必ずこうなる。だめだめ、「ゆつくり」を外さないようにしよう。あまり歩き回るのもよくない。適度な運動になるくらいがちようどいい。まてまて、いったん休憩しよう。今日は、新聞が遅れないよう早くみんなの作文を打ち込まなくっちゃ。

新年花園

甥っ子(弟の子供)がラグビーで花園出場。岐阜県代表関商工ウイング(一番サイドでトライを取るポジション)去年も出場したが風地蔵さんの門松教室講師で応援に行けず、今年もまさかの門松教室。しかし一回戦突破！見事トライを決める。

両親と子供達を車に乗せ、二回戦観戦。自分も小学校の頃からラグビーファン。体がヒョロヒョロなのでラグビーには入らなかった。弟はラグビー部。母親は母校。こんなに嬉しいことは無いと思う。

同点引き分け、抽選の結果二回戦突破し、お正月を大阪花園ラグビー場で過ごすことができた。

ラグビーは高校入学から。それまではサッカー。大したものだ。ボールを脇に抱え、大男にぶつかっていく。カッコ良かった。

庭師 奥田良樹